



# オガもり通信

No. 8



小笠原村環境課 04998-2-2270

## 夏の彩り体験会

(2020年8月10日 山の日)

山や森林は、「生物多様性保全」、「文化の形成」、「レクリエーション」、「水源保持・河川流量の調節」、「木材等生産」など、私たちに様々な恩恵をもたらします。これらの恵みを持続的に受けるためには、人の手による保全や維持管理が欠かせません。

小笠原の乾性低木林や湿性高木林なども、皆さんにとって大切な“山”であり、世界自然遺産の価値である生態系の基盤でもあります。そして、健全な山の保全管理は生態系全体への相乗効果を生み出すことが期待されます。

今回、8月の祝日「山の日」に小笠原の“山”に親しもうということで、森で遊び、森に愛着を持ってもらうイベントを行いました。参加者34名（うち子ども14名含む）、スタッフ10名に参加いただきました。最後に植栽地①を、衰退した木生シダが復活するよう願いを込めて**マルハチの谷**と名付けました。



都Rからクイズ形式の樹木紹介  
1つの芽が何枚もあるのは“複葉”



野生研から取組紹介  
樹木園で育てているランも



新規の参加者は、まずは  
オガもりをぐるりと一周



入口の草刈り



オガグワの根みがき



アカギ材のオブジェや樹名板づくり



樹名板の取り付け



インスタ映え隊



色々つくり隊



熱中症予防にかき氷



島タケノコさばき体験



お土産は素敵な器のタコノキ苗

7月にオガサワラタマムシが飛んでいたクワノハエノキにも樹名板がつけました。



→

# 野生研のお仕事紹介

オガグワの森づくりに欠かせないスタッフとして野生研の皆さんがいます。今回は、オガグワの森に関することで野生研が行っていることを紹介します。特にメインで活躍している方々は……こちら！→

## お仕事① オガグワ苗の順化

林木育種センターからクローン苗が届くと清瀬都住の奥にある“清瀬樹木園”に運ばれます。ここは森林総合研究所の施設で野生研が管理しており、住宅地の中のある森のようです。この苗以外にも、希少なものからタコノキまで、様々な在来植物が栽培されています。7月に届いた苗は、瓶とプラスチック容器、試験管に入れており、蓋を少しずつ開けながら、数日かけて小笠原の気候に馴らし、ポットに植え替えました。その後は、温度・湿度・陽射し・害虫・病気などに気を配りながら育てています。



樹木園入口 大正10年！設置



小笠原の夏の陽射しは植物にはつらいため日除け付き



2、3月に届いた苗は順調に育っています。



通し番号の入ったプラタグ



どの苗かすぐにわかるよう、圃いにタグを付けました。



大きくなってきたオガグワ苗の圃いは拡張しました。

## お仕事③ イベントのお手伝い

オガもりでは年2回程度、森づくり体験等のイベントを開催しています。その際、苗の順化の取組紹介や作業指導などを行っています。



圃いの補修方法をレクチャー



苗の順化方法とオガグワ愛を語る

みどりさん

野生研のムードメーカー イベントや作業時、あつという間にみどりワールドに染まります。おかげで参加者・スタッフは毎回、楽しんで作業出来ています。



よしこさん

野生研の頭脳担当 豊富な植物の知識を活かし、馴化中の苗の記録などを行っています。みどりさんとの掛け合い漫才的な会話も見ている飽きません。



ゆきさん

野生研の山ガール 最近、チェーンソー技術を習得し、オガもりの手入れの際には大活躍してくれます。島タケノコのさばきはおまかせ！



## お仕事② 植栽した苗の保育

オガもりにおいて、2018年12月に植栽した苗を育てています。雑草取り、害虫・病気対策、ヤギ除けの囲いの補修などなど、植えてからもまだまだ手がかかります。7月には村の職員と一緒に、アレチヌスビトハギの草抜きや囲いの拡張、苗へのタグ付けを行いました。





# オガモイ通信

No. 9



小笠原村環境課 04998-2-2270

## 冬の植樹会

(2020年12月13日)

2018年の返還50周年以来となる植樹会を行いました。参加者37名（うち子ども9名含む）とスタッフ9名で、オガグワの苗を約30本植えました。新型コロナウイルス感染症予防対策を取りつつ、親子、夫婦、友達同士など、それぞれのペースで、穴掘り、植栽、囲いの設置を行いました。



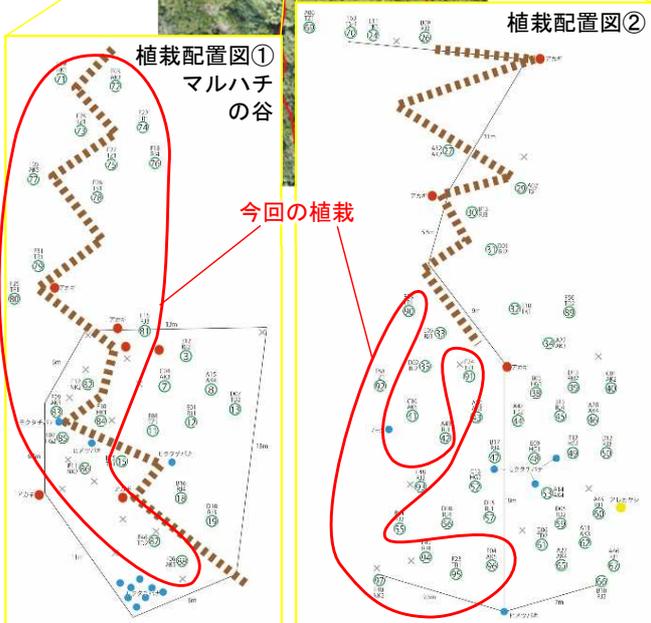
都レンジャーの小話。  
どんな楽しい話かな？



野生研による植栽方法のデモ



休憩中にオガモリ一周ツアー



2021年の新成人  
による記念植樹



# 森の経過

2020年初めから続くこの状況が、なかなか好転しません、森づくりは進んでいます。

## 階段の修理

これまで使っていた階段の一部がグラグラになってきたので、近自然工法により修理しました。近くからアカギを伐り出して、スタッフみんなで運び、以前よりも丈夫な階段になりました。



今回の冬は雨が多く、森の中には色々なたくさんのキノコが生えてました。

## 掲示板づくり

この号でNo.9を迎える「オガもり通信」ですが、お披露目の場がホームページとメールくらいしかありませんでした。

そこで、父島で伐った木を活用して掲示板を作り、入り口に設置しました。

今、何が掲示されているか、ぜひチェックしてみてください！



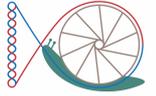
2020年の年の暮れ、ウラジロエノキ（愛称ママキ）に亀裂が入っていると連絡があり、そのままでは危険なため、すぐに伐採しました。





# オガもい通信

No. 10



小笠原 ★  
世界自然遺産  
十周年

小笠原村環境課 04998-2-2270

## ヤギ柵完成！

(2021年7~10月)

オガグワの葉っぱはヤギの大好物です。2019年には大苗の葉っぱが全部食べられてしまう事件もありました。そのため、苗を植えるたびに苗ごとに囲いをしていました。ただ、植えてから3年経つ苗もあり、囲いの中で窮屈そうにしているオガグワが多くなってきました。

そこで、植栽地全体を柵で囲い、苗ごとの囲いを外しました。

これでオガグワがのびのび育ってくれるといいですね。

出入口の扉はヤギに入られないよう必ず閉めましょう。



ヤギ侵入防止柵  
出入口には扉あり

## 晩秋の植樹会 (2021年11月27日)

2021年初めに届いたオガグワのクローン苗が順調に馴化できましたので、晩秋に植樹会を行いました。参加者27名（うち子ども8名含む）とスタッフ14名で、25本植えました。



都レンジャーの小話  
かつてはこんなに大きなオガグワが！



親子で仲良く植樹♪



急傾斜地での植樹は  
林野庁の人たちの得意分野



村長と副村長で2021年新成人  
記念樹のプレート補修



あっという間に植え終わって  
はい、チーズ

# オガもり材を活用した遺産登録10周年記念写真立て

(2021年)

2020年暮れのある日、2021年の遺産登録10周年に向けて、みなさんに小笠原の自然を身近に感じてもらえる企画を考え始めました。せっかくなので、同じコンセプトで取り組んでいるオガもりに関係するものが良いと思い、伐採したアカギを活用した写真立てづくりが始まりました。構想からおよそ1年。小笠原で人気の生き物10種の写真と、縁の深い人たちの生き物紹介文の載ったカレンダーを2021年12月に全戸配布いたしました。2022年が終わっても写真と写真立てとして、お部屋に事務所に是非飾ってください。



**12 Dec. 2022**

小笠原島の自然を伝えるために、オガもり材を活用した写真立ての制作を行いました。この写真立ては、小笠原の父島で外来樹木として絶滅危惧種であるアカギ、リュウキュウマツを伐採し、乾燥から製材、乾燥の工程を経て、およそ10ヶ月かけて製作されました。

この写真立ては、小笠原の父島で外来樹木として絶滅危惧種であるアカギ、リュウキュウマツを伐採し、乾燥から製材、乾燥の工程を経て、およそ10ヶ月かけて製作されました。

**写真立てができるまで**

この写真立ては、小笠原の父島で外来樹木として絶滅危惧種であるアカギ、リュウキュウマツを伐採し、乾燥から製材、乾燥の工程を経て、およそ10ヶ月かけて製作されました。

オガもり材を活用した写真立ての制作の様子

## 道づくり体験会

(2022年1月29日)

2018年初めに道づくりを行ってから4年。伐採したアカギで出来た道の劣化が著しくなってきました。そこで、再び北海道山岳整備の岡崎さんの力を借りて、近自然工法（詳しくはオガもり通信No.1参照）による階段補修を行い、参加者11名（うち子ども1名含む）とスタッフ10名が参加しました。

今回は、腐食が進んだ木材を撤去し、その代わりに劣化しにくい石を据えて段にしたり、スロープにしたりしました。

前日に運んでおいた石を使って作業し、“マルハチの谷”の階段のほとんどを補修することができました。



岡崎さんによる  
デモンストレーション



4班に分かれて作業



作業後に各班の作業をみんなでふりかえり



# オガもり通信

No. 11



小笠原村環境課 04998-2-2270

## 沢遊び会

(2022年7月10日)

オガもりには長谷ダム上流の2つの沢が流れています。この沢沿いは湿っていて、父島ではみられる場所が少ないマルハチやメヘゴの群落が見られるほか、沢ではカワニナやヌマエビなどの水生生物も観察できる貴重な場所です。

この沢沿いは未整備のため、まだ一般の方は近づくことができませんが、これらの景観や生き物観察を楽しめるように、今回、近自然工法を用いた整備に着手しました。整備できたのは一部分のため今回で開通とはなりません、今後の整備につなげていきます。



参加者20名、スタッフ9名、計29名が集結！

### 1 都レンジャーの小話・野生研のオガグワ紹介

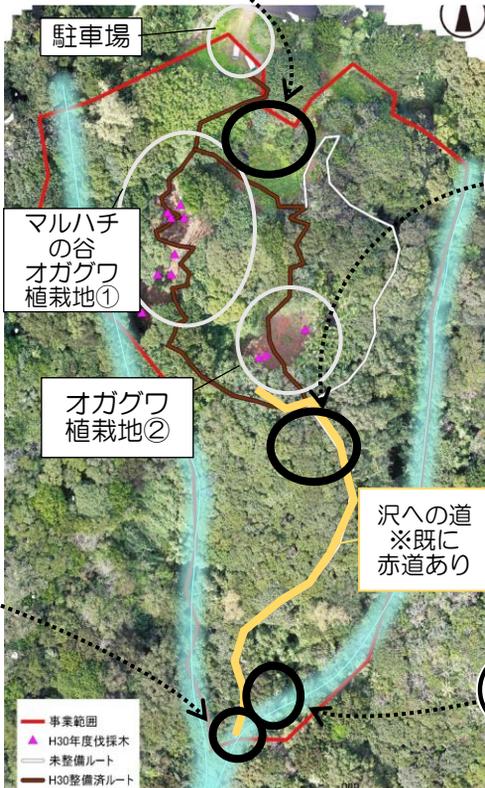


まず初めにスタッフから、近自然工法での道づくりや、オガグワはどんな植物なのかお話をしました。その後、道づくり班と片付け班に分かれて整備を開始しました。

子供たちも小石をつめるお手伝い。



どろんこは得意だよ！



### 2

#### 道づくり班



道づくり班は、丸太と石を使った近自然工法によって、歩きやすいように階段やスロープ（マンゴーの大木の下だからマンゴーカーブと名付けました！）を整備しました。

### 3 before

#### 片付け班



片付け班は沢に近づきやすいように沢に広がったタケを伐採、撤去して沢沿いの広場をつくりました。

### 4

#### 沢の生き物観察会



最後に、片付け班がきれいにした沢沿いの広場に集合して、みんなで沢の生き物観察をしました。オガサワラカワニナやオガサワラヌマエビなど様々な沢の生き物に出会えました。

### after

こんなにすっきりしました！

水遊び 楽しいね



タモで水生生物を捕まえたよ！

